

Business Report

第27期 株主通信

平成23年4月1日～平成24年3月31日



HOLON
株式会社 ホロン

株主の皆様へ

ホロンのものさしはナノメートル。
見えない世界を測ります。



代表取締役社長
穴澤 紀道

株主の皆様には平素より格別なご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、半導体産業及び関連事業分野におけるお客様の最先端技術を支える検査計測装置を中心として営業活動を展開してまいりました。東日本大震災から1年を経て

国内半導体産業は回復の途上にあるとはいえ、国内には原子力発電の問題などを抱え、世界的に見ればユーロ圏債務問題の再燃が憂慮されるなど経済環境は決して楽観できる状態ではありません。

昨年度の当社の業績は、年度前半は順調に推移しましたが、後半はお客様の購入計画の延期などにより伸び悩み、最終的には売上計画を達成することができませんでした。株主の皆様のご期待にそえない結果となりましたこと誠に申し訳なく思っております。

昨年度出荷しましたマスクCD-SEMの最新鋭機「Z7」は、超低真空機能による帯電除去、収差補正機能による画像高分解能化及び新電子ビーム制御系による高性能化等に加え、大幅なスループット向上を達成することができ、お客様にも高い評価をいただいております。

また、当社の「EBLITHO」の技術を基礎とするロールモールド露光装置とロールモールド評価用SEM装置はお客様の現場での応用段階に入っており、今後もプリントエレクトロニクスなど最新技術の発展のためその役目を担ってまいりたいと考えております。

株主の皆様には引き続きより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

nano tech 2012 国際ナノテクノロジー 総合展・技術会議に出展



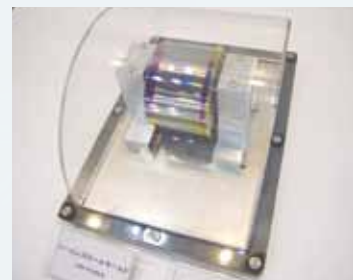
ブースの様子

2012年2月15日(水)～17日(金)に東京ビッグサイトで開催された「nano tech 2012 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」に出展しました。

当社ブースでは、世界初のシームレスロールモールド用の検査装置「ROLL-SEM」を紹介しました。

「ROLL-SEM」は、光デバイス製造用大面積シームレスロールモールドの製造に必要な不可欠な電子ビームによるパターン検査装置です。

今回旭化成株式会社様のご協力により、実際の検査に使用した大面積シームレスロールモールドを借用し展示しました。この開発の成功は、将来フレキシブル電子デバイス等へ展開する上での第一歩となります。



提供：旭化成株式会社様

財務諸表(要旨) 単位:百万円、単位未満切捨て

貸借対照表

科目	前期(26期) 平成23年3月31日現在	当期(27期) 平成24年3月31日現在
流動資産	799	740
固定資産	111	173
負債	468	606
純資産	442	307
総資産	910	914

損益計算書

科目	前期(26期) 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	当期(27期) 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
売上高	538	826
営業損失(△)	△11	△126
経常損失(△)	△40	△132
当期純損失(△)	△37	△135

キャッシュ・フロー計算書

科目	前期(26期) 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	当期(27期) 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	64	△48
投資活動による キャッシュ・フロー	3	△1
財務活動による キャッシュ・フロー	△78	223
現金及び現金同等物の 期末残高	107	280

業績ハイライト

当期の概況

当期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による生産活動の停滞や原発停止による電力不足の問題に加え、欧州の財政危機や急激な円高・株安の長期化などにより先行きの不透明な状況で推移いたしました。

半導体業界におきましては、スマートフォン(高性能携帯電話)やタブレット端末などデジタル家電に使用する半導体の需要は好調に推移しているものの、震災の影響による生産体制の混乱やタイの洪水被害は国内企業に大きな打撃を与えるなど先行きの見通せない状況が続きました。

このような状況のもと、当社の主力製品であるマスクCD-SEMにつきまして、顧客の仕様ニーズに対応した製品開発を継続してまいりました。最新鋭機「Z7」は電子ビーム制御系を一新し最新のソフトウェアを搭載して高性能化を進め第2四半期におきまして納入実績を上げております。また、当社独自の帯電防止技術の強みを発揮するナノインプリント基板への応用など新たな受注先の開拓にも注力してまいりました。しかしながら、

次期の業績予想

次期の見通しにつきましては、復興需要等により景気を持ち直しが期待されますが、依然として電力供給の問題や原油価格の高騰など不安材料が残っております。このような事業環境のもと、当社は主要顧客の設備投資動向を鑑みながら、マスクCD-SEMの更なる性能向上と新規商品開発に取り組み、高性能化・高付加価値化を実現する商品を提供して業績の拡大と収益向上に努めたいと考えております。

第4四半期に販売を計画していた案件は顧客都合により受注に至らず売上目標を達成することができませんでした。

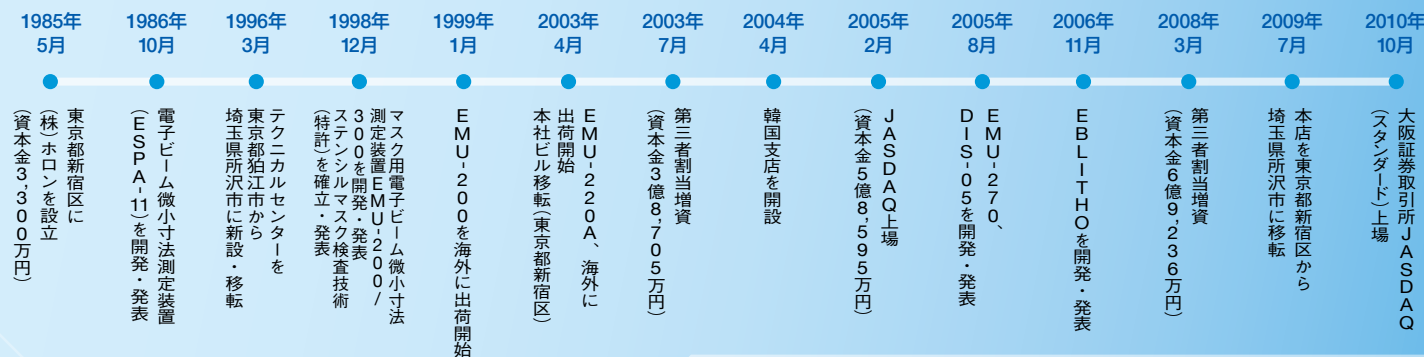
一方、電子スタンプ「EBLITHO」につきましては、その技術を基礎とするロールモールド露光装置の開発が旭化成株式会社との共同開発で成功したことにより半導体以外の産業分野からも注目を集めました。この共同開発に関連して、当社独自のロールモールド評価用SEMの開発も高く評価され、露光装置の試作用共同開発装置とロールSEMを受注し第4四半期におきまして顧客への納入を完了しました。

上記の結果、当期の売上高は826百万円(前期比53.5%増)となりました。損益につきましては、営業損失126百万円(前期営業損失11百万円)、経常損失132百万円(前期経常損失40百万円)、当期純損失135百万円(前期当期純損失37百万円)となりました。

なお、当社の主力事業である製品事業では、装置1台あたりの販売価格が非常に高額なことから得意先の検取のタイミングにより売上計上時期は大きく変化する可能性があり見通しは立てにくい状況にあるため、通期の業績予想は当社の年間目標として開示いたします。

次期の業績予想につきましては、売上高1,275百万円、営業利益173百万円、経常利益158百万円、当期純利益156百万円と増収増益を目指します。

HISTORY



会社概要

平成24年3月31日現在

会社名	株式会社ホロン (HOLON CO., LTD.)
所在地	〒359-0011 埼玉県所沢市南永井1026-1 TEL：04-2945-2951 (代) FAX：04-2945-2962
設立	昭和60年5月
資本金	6億9,236万円
代表者	穴澤 紀道
従業員数	42名
事業内容	半導体検査装置の開発、 製造、販売、保守サービス

役員

平成24年6月27日現在

代表取締役社長	穴澤 紀道
常務取締役	新田 純
取締役	大島 道夫
取締役	張 皓
取締役相談役	富加津 好夫
取締役	古川 陽
常勤監査役	柳原 香織
監査役	三澤 順一
監査役	齊藤 秀一

※取締役 古川 陽氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※監査役 三澤順一及び齊藤秀一の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
また、三澤順一氏は大阪証券取引所の定める独立役員であります。

株式情報

平成24年3月31日現在

発行可能株式総数	102,000 株
発行済株式総数	33,405 株
株主数	2,256 名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社エー・アンド・デイ	10,216	30.58
富加津 好夫	4,415	13.21
新田 純	830	2.48
嶋崎 勝次	600	1.79
生江 隆男	500	1.49
東風海運株式会社	492	1.47
嶋山 武美	464	1.38

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次所	三井住友信託銀行株式会社 全国本(各)支店

■住所変更、株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

ホームページのご案内



ホームページでは、最新のIR情報
をご覧いただけます。
株主通信に関するご意見・ご感想
もお待ちしております。

<http://www.holon-ltd.co.jp>

HOLON
株式会社 **ホロン**

〒359-0011 埼玉県所沢市南永井1026-1
TEL：04-2945-2951 FAX：04-2945-2962

